

学則の変更の趣旨等を記載した書類

a 学則変更（収容定員変更）の内容

大正大学は、大正15年に日本で唯一の仏教総合大学をめざして設立された大学であり、伝統宗派である天台宗、真言宗豊山派、真言宗智山派、浄土宗をその設立母体として発展し、多くの人材を世に送り出してきた。

本学の建学の理念は、設立以来仏教の根本思想である「智慧と慈悲」の実践を掲げてきたが、平成21年3月、教育目標として以下に掲げる「現代に通じるブツダの教え：4つの人となる」というビジョンを策定し、今後の教育・研究活動を行っていくこととした。

- ①生きとし生ける者に親愛の心を持てる人となる（慈悲）
- ②とらわれない心を育て、正しい生き方をできる人となる（中道）
- ③真実を探究し、自らを頼りとして生きられる人となる（自灯明）
- ④ともに目的達成のための努力ができる人となる（共生）

人類が生かされてきた最大の恩恵でもある地球環境が、人間自らの手によって破壊されようとしている今、必要なことは、人間ひとり一人が未来のために貢献する生き方をすることである。換言すれば、地域や社会、生活のあり方を常に考え、人と人との関係の再構築をめざし、他人の幸せのために生きられる人となってほしいということである。こうした願いから、新教育ビジョンが誕生した。

平成22年には、この教育理念・ビジョンを踏まえて、これまでの人間学部、文学部に加え新学部として仏教学部、表現学部を開設し、4学部体制の文系総合大学をめざすこととした。これは、本学が長い歴史の中で培ってきた教育・研究分野の再構築・再編を試み、現代的課題やニーズに対応した新たな学部や学科を設置したいと考えたからである。

近年の18歳人口減少の中にあって、大学を取り巻く社会情勢の変化に対応すべく平成20年度より行ってきた教育改革の姿勢と内容が社会に理解・評価され、各学部・学科に対する志願者は高い水準を維持している。

本学はこれからも社会的なニーズを捉え、必要とされる優秀な人材を輩出することが大正大学の社会的責任であると考え、受験生ニーズの高い分野について、その使命と役割とを一層明確な形で社会に対して明示するために、人間学部臨床心理学科、文学部歴史学科、表現学部表現文化学科において、入学定員を合計120名増員し、収容定員を480名増員するものである。

収容定員増の内容及び内訳は以下の通りである。

学部・学科	入学定員	編入学定員 3年次	収容定員
仏教学部	100	25	450
仏教学科	100	25	450
人間学部	420	11	1,702
アーバン福祉学科	80		320
人間環境学科	60		240

臨床心理学科	110	5	450
人間科学科	105	3	426
教育人間学科	65	3	266
文学部	260	6	1,052
人文学科	100	3	406
歴史学科	160	3	646
表現学部	200	3	806
表現文化学科	200	3	806
計	980	45	4,010

b 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学における全学的見地から収容定員変更の必要性は、以下の4点である。

1. 教育改革等により社会的要請にマッチし本学志願者数は増加していることから、その進学希望者のニーズに応える。
2. 本学では、「大正大学の社会的責任」を標榜しており、社会的に大学の入学定員の超過が問題視され、厳格化の動きもあることから、入学者の受け入れを入学定員の1.0倍に近づける。
3. これまでの学生数の受け入れ規模を維持し、経営・財政的な健全化を図る。
4. 本学の建学の精神に基づく新教育ビジョン「4つの人となる」を具現化した人材の育成と輩出が本学の責務であり、社会からの要請である。

以上のことに鑑み、社会的要請と志願者のニーズの高い、以下の学科の収容定員を今般、変更することとした。

参考資料：過去5年間の志願者数、合格者数、入学者数の推移

(1) 人間学部臨床心理学科

本学は昭和38年カウンセリング研究所の設置以来、臨床心理学のパイオニアとして永年にわたって心理臨床の教育・研究を行ってきた。その実績として、悩み苦しんでいる人々に対する問題解決への援助技法としてのカウンセリングの研究、カウンセラーの養成及び臨床活動を通して斯界に人材を送り出すなど大きな貢献を果たしてきた。この実績に対する評価が志願者数の増加として表れてきた。

一方、現代社会が抱える今日的課題は、社会構造の複雑化、情報化の進展、格差社会の拡大など、さまざまな社会変動と影響により人間生活上において心理的課題を抱える人々がますます多くなっているというのが現実である。こうした状況の中で心理的援助と人の心の理解についての理論的・技術的な体系化を踏まえ、より高度な専門化と同時により優秀な専門職の人材養成が急務となってきた。そこで本学では、このような社会ニーズに積極的に応えることが社会的な責務と考え、臨床心理学科において入学定員の増員を行う。

(2) 文学部歴史学科

本学の史学関係の学科の歴史は、昭和24年に文学部史学科として設置されたことに始まり、平成15年度には文学部国際文化学科（平成5年度設置）の中国・インド・東アジアといった地域研究を東洋史の分野を加え、近現代のテーマを取り込むことによって歴史文化学科と改編した。その後、社会的な要請の変化に応えるべく平成22年度には歴史学科と名称変更を行い、現在に至っている。その間、歴史教育や文化事業等の歴史関係に携わる優秀な人材を輩出してきた。

本学の歴史学科では、歴史研究において史実を実証的に究明することにより、現代社会の成り立ちを理解することに主眼を置いてきた。こうした本学の伝統的な歴史学の教育活動のあり方が安定した学生確保を担保すると同時に、近年さらなる評価が加わり大幅な志願者数の増加として表れてきた。

一方、今日の日本社会は残念ながらますます混沌とし、なかなか明るい未来を想像できないという非常に厳しい状況であり、現代社会や未来への問題解決が出来るより多くの人材養成が急務となってきた。そこで本学では、このような社会ニーズに積極的に応えることが社会的な責務と考え、歴史学科において入学定員の増員を行う。

(3) 表現学部表現文化学科

本学は平成15年度に文学部の中に表現文化学科を設置。その後、文芸、映像等の制作や創造的完成を養うことを目的とした教育分野に対する高校や受験生の期待が大きく、志願者数も毎年増加した。

本学の表現文化学科はあくまで人文系教養を基盤とした知識人を養成しようとするところが特色であり、教育の基本的な態度や姿勢についても一貫したポリシーを策定している。その独自性が社会や教育界で一定の評価を受け支持されたことも、現在の志願者増となっていると考える。

一方、今日のグローバルな情報社会において、創作・創造の分野がますます複雑、多様化している。ポップカルチャーから文化・芸術まで様々な表現作品を市場に展開がされている中で、表現文化学科の使命や教育のビジョンをさらに明らかにし、独自の教育活動を行うことによって、将来の日本文化や生活文化の向上に貢献する人材を数多く養成していきたいと考える。また、高校や受験生のニーズが大変高まっていることもあり、こうした期待、信頼に対して受入数の拡大によって応えるべく、入学定員の増員を行う。

c 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

このたびの学則変更（収容定員変更）は、各学科におけるこれまでの教育・研究の実績の上にたったものである。よって、教育の理念や目標、カリキュラムの枠組みや編成等についての変更なく、収容定員の変更をするものである。

過去5年間の志願者数、合格者数、入学者数の推移

学科名	H19			H20			H21			H22			H23		
	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
表現文化学科	788	293	188	595	292	171	1,026	333	189	946	289	159	1,026	316	157
歴史学科	856	435	247	678	372	201	934	328	177	972	310	159	1,108	353	168
臨床心理学科	753	203	112	559	252	121	869	234	117	731	215	102	829	199	100
3学科合計	2,397	931	547	1,832	916	493	2,829	895	483	2,649	814	420	2,963	868	425
全学部	3,771	1,723	1,018	3,041	1,730	1,001	3,961	1,751	995	4,850	1,977	1,010	5,962	2,084	1,054

